# 令和6年能登半島地震における新潟市の保健活動

～液状化による被災者支援を通して～

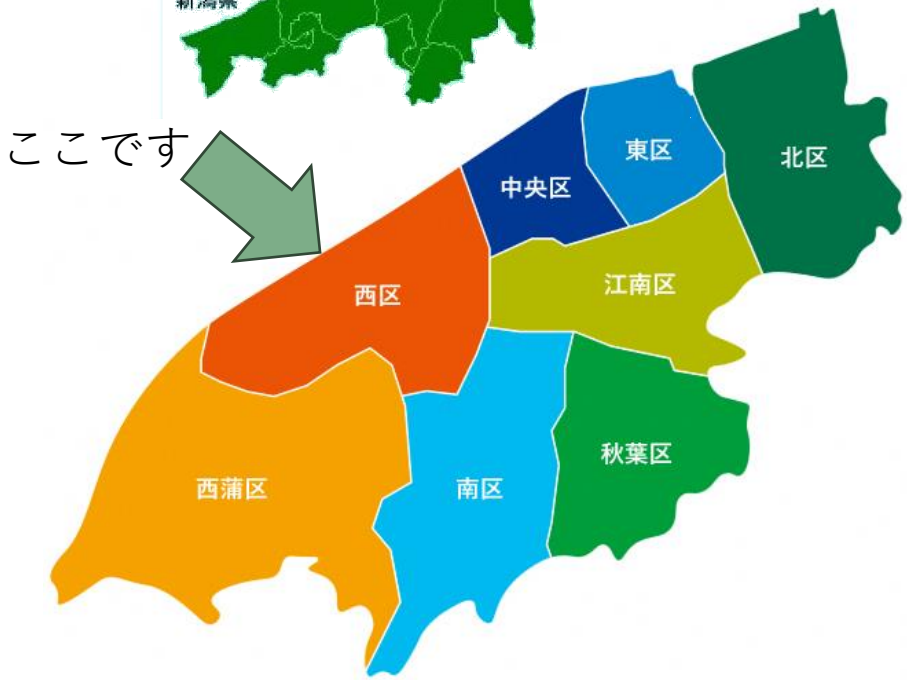
新潟市西区健康福祉課　木場静子

# 新潟市の概要

人口　766,797人（令和6年2月1日現在）
高齢化率　30.5％

保健師　166人（令和６年4月1日現在）
　本庁　38人　保健衛生部（保健所），福祉部、
　　こども未来部、総務部、教育委員会
　各区　128人　健康福祉課

【西区の概要】
　人口　153,920人（令和6年2月1日現在）
　高齢化率　30.2％
　保健師数　23人　健康増進係、高齢介護担当、
　**地域保健福祉担当（坂井輪地区担当）**
　西地域保健福祉センター、黒埼地域保健福祉センター




**地区を担当**

# 新潟市の災害時保健活動組織図

新潟市災害対策本部

**協力・連携**

**保健衛生対策本部**
**（保健医療活動本部）**

区対策本部
**健康福祉班**
区民生活班

災害対策本部各部

災害医療コーディネートチーム
保健所長（コーディネーター）
医師会等医療機関団体の長
新潟大学医歯学総合病院長
災害拠点病院長
新潟県　　他

活動本部長
（保健衛生部長）

保健衛生総務班
医療対策班
保健対策班
食品衛生班
環境衛生班　他

# 新潟市の被害状況と特徴

令和6年3月８日現在

**西区内でも液状化した地域は局所的で、被害の程度は外見目視だけでは把握が困難であり、被災者の全体像が見えにくい災害だった。**

1　人的被害

| | 新潟市 | うち）西区 |
|---|---|---|
| 死者 | 0 | 0 |
| 重症者 | 1 | 1 |
| 軽症者 | 21 | 6 |

2　**建物被害**

| | 新潟市 | うち）西区 |
|---|---|---|
| 全壊 | 93 | **83** |
| 半壊 | 2,605 | **2,189** |
| 一部損壊 | 11,435 | **7,462** |

3　**道路被害**
（路線数）

| | 新潟市 | うち）西区 |
|---|---|---|
| 国県道 | 5 | **1** |
| 市道 | 316 | **211** |

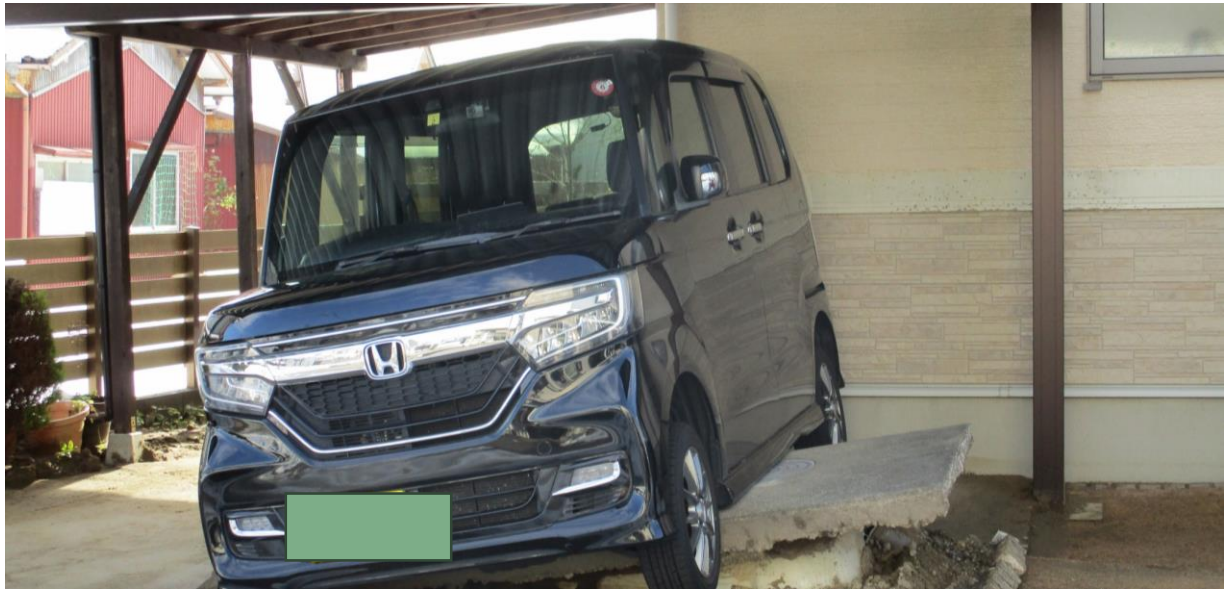
4　**避難の状況**

| | 西区 |
|---|---|
| 開設避難所 | **1か所** |
| 避難者 | **4世帯・6人** |

5　**液状化による泥処理**
**（土嚢袋配布数）**

| | 新潟市 | うち）西区 |
|---|---|---|
| 枚数 | 350,768 | **335,060** |

西区のみ：臨時給水所　2か所　仮設トイレ　2か所　入浴施設無料開放　3か所



# 保健活動の実際（西区の動き）

1月1日（月）（フェーズ０）　16時10分発生　西区　震度5強

〇避難所開設　38か所　約6,500人　　津波警報発令

**〇人工呼吸器装着者・安否確認対象者への電話による安否確認⇒保健所へ報告**

1月3日（水）（フェーズ１）

〇避難所　5か所　31人　⇒避難所を巡回し衛生環境、避難者の健康状態の確認

**〇災害ボランティアセンター開設（社協）防災士[1)]発信による伴走型支援（全国初）の取組み**
**⇒「からだとこころの相談先」のチラシをアウトリーチ時に配布を依頼**

1月4日（木）

〇避難所　5か所⇒2か所　8世帯・22人

**〇医療機関、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、介護保険や障がいのサービス事業所等の被災状況、ケースの対応状況を確認**

[1)] 防災士とは、自助・共助・協働を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動をする人。
一般住民の希望者が知識技能を修得して日本防災機構が認証した人。

## 1月6日（土）～12日（金）（フェーズ２）

**〇「死にたい」などのメンタルの相談が数件，西区災害対策本部に入る**
**⇒被災地域への全戸訪問による相談を計画　統括保健師へ保健師の協力を依頼**

**〇被害の大きいエリアの全戸訪問を実施**

**【訪問で把握した液状化による被災住宅の特徴と健康課題】**
自宅内が波打っての傾斜　ガス水道が使用不能　傾斜からくるめまい・頭痛、地面が動いている、地震の揺れが続いているなどの感覚　能登と比べれば困ったと言えない

## 1月15日（月）～

**〇各地域の民生委員協議会にて被災地域訪問の状況を報告、地域の情報提供を依頼**
⇒1月15日～2月2日　西区の保健師で訪問継続

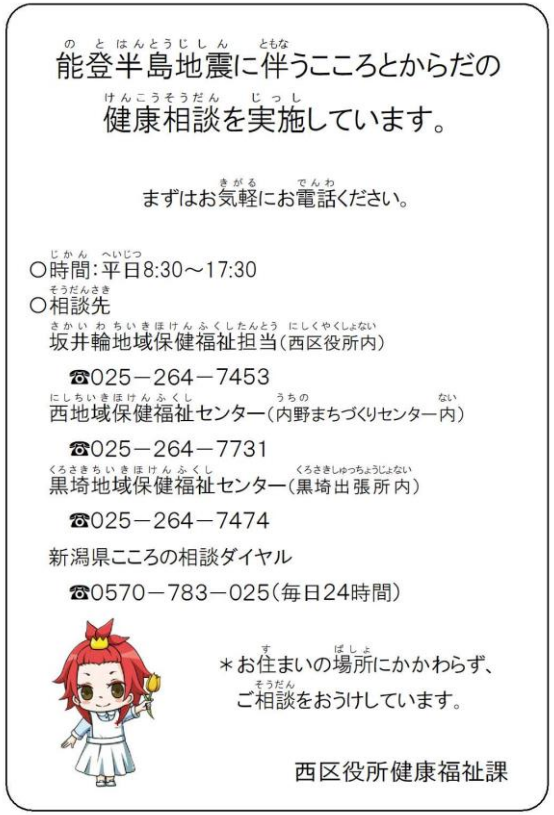
**〇訪問看護ステーションの連絡会議にて発災時の対応について情報交換**

**〇包括支援センター主催　ケアマネ連絡会での情報交換**

# 被災地域訪問による健康調査

西区内の被害が大きいエリアを中心に、保健師による戸別訪問を実施し、震災後の健康状態の確認をするとともに、今後、心身の不調を感じたときは早めに相談いただけるよう周知を図った。

〇訪問数　3,215件
（面談数　1,471件、要フォロー数　33件）
**〇保健師数　66チーム　延122人**
**※1月9日～12日は各日11人の他区等から保健師応援あり**
〇健康状態，心配事などの聞き取り、相談先の紹介
※面談できなかったお宅には、相談先のチラシをポストインし、周知を行う

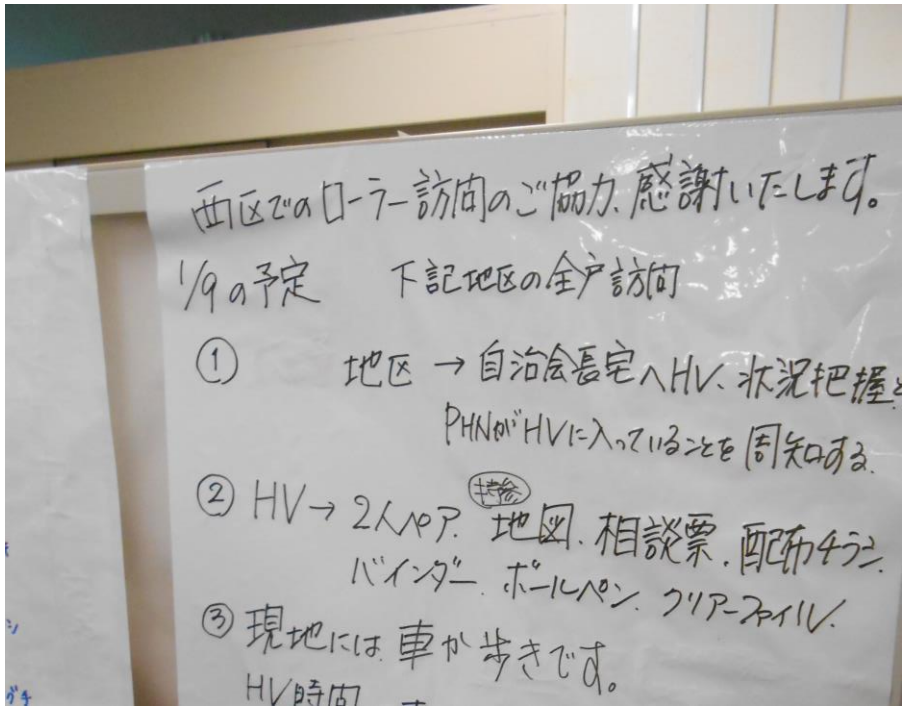

能登半島地震に伴うこころとからだの
健康相談を実施しています。

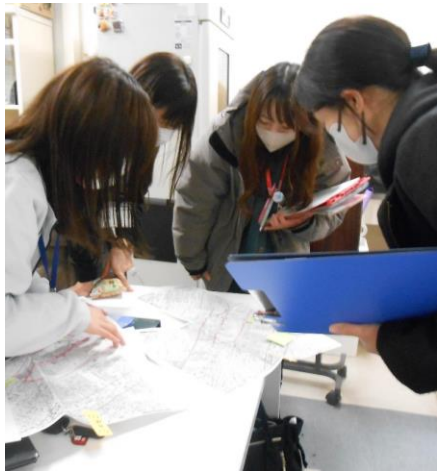
まずはお気軽にお電話ください。

〇時間：平日8:30～17:30
〇相談先
坂井輪地域保健福祉担当（西区役所内）
☎025－264－7453
西地域保健福祉センター（内野まちづくりセンター内）
☎025－264－7731
黒埼地域保健福祉センター（黒埼出張所内）
☎025－264－7474
新潟県こころの相談ダイヤル
☎0570－783－025（毎日24時間）

＊お住まいの場所にかかわらず、
ご相談をおうけしています。

西区役所健康福祉課


西区でのローラー訪問のご協力、感謝いたします。
1/9の予定　下記地区の全戸訪問
① 地区 → 自治会長宅へHV、状況把握と
PHNがHVに入っていることを周知する。
② HV→ 2人ペア。地図、相談票、配布チラシ、
バインダー、ボールペン、クリアーファイル
③ 現地には車か歩きです。



⑥
⑤
小金駅
自治
小新小金

# 【主な相談内容】

- 自宅が倒壊。今後の居住先を探さなければならない。断水で水分が十分に取れていない。
- 地震で仕事場を失い、喪失感と強度のストレスで食事がとれない。眠れない。
- 家屋の被災で精神的な落ち込みあり涙が止まらない。食事もとれない。
- （高齢者）子供と同居だが、日中は一人で不安。
- （一人暮らし高齢者）体の状態から家の中が整頓できない。
- 高血圧治療中だが、かかりつけ医が被災した。どこから薬をもらえばよいか。
- 1日中こたつに入って座りっぱなしで動かない。

# 地区担当保健師による平時からの取組み

## ①保健所との連携　在宅人工呼吸器装着者の個別課題を市の課題へ

〇在宅人工呼吸器装着者の災害時避難計画マニュアルの更新

〇年末に災害時安否確認報告シートを作成し、保健師間で共有

※保健師ジャーナルVol.74№11「新潟市の取組み」参照

## ②保健医療福祉専門職と一緒に学ぶ機会を作る

**〇個別課題に取組む際に、対象者に関わる専門職や地域との連携で災害に対する意識の違いがネックになり先に進めない現状を改善するために、防災士、総務課の協力を得て研修・情報交換会を実施**

## ③区内保健師の連携へ　災害時保健活動ワーキング立ち上げ

**〇アクションカード作成　〇災害時初動訓練の実施　〇西区保健師災害時連絡用SNS**

# 考察　（１）被災時の保健活動

- 初動時、配備参集職員は避難所開設対応に追われ要支援者の安否確認に取組めなかった。自主的に参集した保健師が人工呼吸器装着者の安否確認を実施。　⇒　発災時の配備体制、役割分担等の見直しや確認が必要。

- 各所属は現場の様々な情報を把握していたが、区内で情報共有、対応を検討する場がなく連携に課題。

　⇒　組織の指揮命令系統が機能する方策の検討が必要。

・職員の災害対応の姿勢（指示待ち、理解の差）に課題が見られた。
　⇒職員の意識を高める平時からの取組みが必要。

・訪問を通して被害の深刻さを把握、健康課題を明確にするとともに、市災害対策本部の「大切なお知らせ」に反映させ、健康相談の周知に繋げた。

・「こころとからだの健康相談先」周知は、住民の安心につながった

## 考察（１）被災時の保健活動　つづき

- 保健所が保健師のリエゾン派遣　⇒　保健所と区が連携してフェーズの確認、保健活動の方針検討、受援終了時期などの見通し。

- リエゾンの存在は現場保健師の精神的支えになった。

- 定期的なZoom会議は、各所属を繋ぎ進捗状況や課題の共有に有効。

- ボランティアセンターの伴走型支援との連携
  ⇒住民の困りごとをつなぎ、健康課題は保健師へ早期対応が可能に。

# 考察（２）発災後の保健活動を支えた平時からの取組み

- 保健師の初動訓練　⇒　若手保健師も自主的に判断して行動。
  市防災計画継続学習がフェーズに応じた保健活動に繋がった要因。

- 西区保健師災害時用SNSが十分に活かされ、情報共有に役立った。

- 事業所との連携
  ⇒平時からの保健医療福祉専門職との災害時安否確認体制の検討
  ⇒稼働状況や要支援者の安否確認状況の情報収集がスムーズ。

- 平時から準備していた大きな地図が大活躍。
  ①総務課、防災士等と一緒に被災地域情報を地図で見える化。
  ②被災状況と要支援者宅の位置関係等から訪問地域の優先順位を検討。
  ③応援保健師への説明。

- 人工呼吸器装着者の課題を共有してきた総務課や防災士からは、「在宅要支援者は大丈夫か？」と心配する声や「保健師もすぐに訪問に取組み（住民として）涙が出る思いだ。熱意がないとできない」とエール。

- 防災士から「R6年度新規に県防災士会に「福祉防災部」を立ち上げた。保健師と連携して西区から全市に広げたい」と熱く語っている。

## 今回の被災を通して今後の課題を考える

# インクルーシブ防災、地域BCPの実現を目指して

- 平時の先の災害対応を共通認識で話せる仲間づくりの継続。
- 被災体験課題は、保健医療福祉専門職、防災の専門家（総務課、防災士）と共有し継続した情報交換を企画。
- 人工呼吸器装着者の避難計画と地域の個別避難計画との整合を図るために、当事者、家族、地域関係者等との調整に取組む。
- 今後は、医療的ケア児者の課題を当事者、家族、保健医療福祉専門職、防災士、地域住民と一緒に把握、共有、検討が必要。
- 所属内では配備参集職員の見直しや要支援者の安否確認体制の検討、職員の意識向上に向けた働きかけ。

# ご静聴　ありがとうございました。

ジージョ　キョージョ

新潟市防災マスコットキャラクター